

# 海外現地法人の動向（要旨）

＜海外現地法人四半期（平成 23 年 7～9 月期）調査＞

～ 平成 23 年 11 月実施 ～

平成 23 年 12 月 21 日  
経 済 産 業 省  
大臣官房調査統計 G

★ 売上高 DI 10-12 月期は 4.9、1-3 月期は 9.1 とプラス水準 ★

## 1. 実績(平成 23 年 7-9 月、前年同期比伸び率)

- (1) 売上高（ドルベース）は、2528 億ドル。前年同期比は 7.8%増と 8 期連続のプラスとなっている。地域別にみると、欧州（同 15.0%増）、アジア（同 7.8%増）、北米（同 3.1%増）とすべての地域でプラス。
- (2) 設備投資額（ドルベース）は、72.2 億ドル。前年同期比は 28.2%増と 6 期連続のプラス。欧州（同 43.8%増）、アジア（同 29.2%増）、北米（同 7.7%増）とプラス。
- (3) 従業者数は、370.5 万人。前年同期比は 3.0%増と 7 期連続のプラス。欧州（同 4.6%増）、アジア（同 2.6%増）、北米（同 2.4%増）とプラス。

## 2. 見通し(現状判断 DI<sup>(\*)</sup>：平成 23 年 10-12 月、先行き DI：平成 24 年 1-3 月)

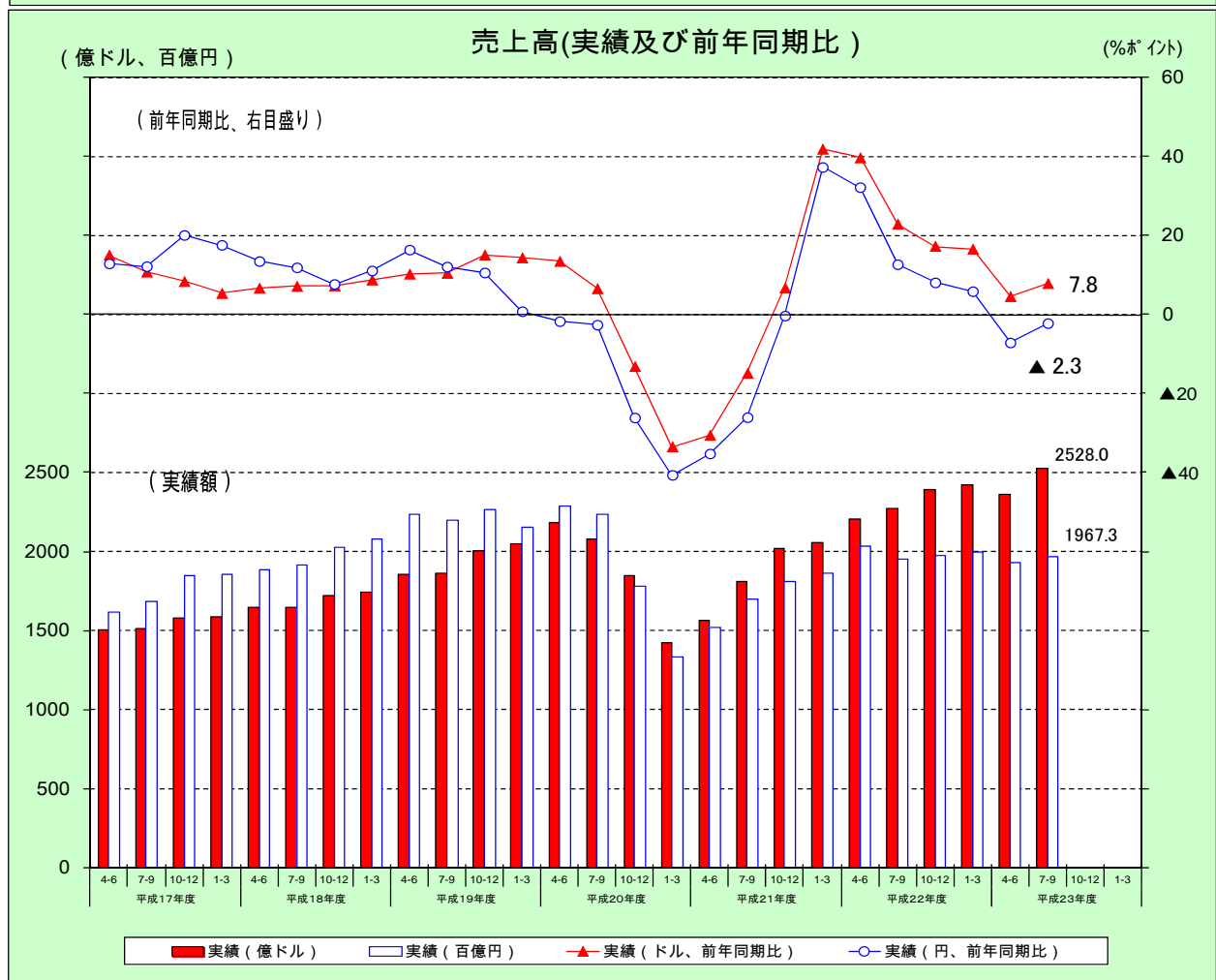
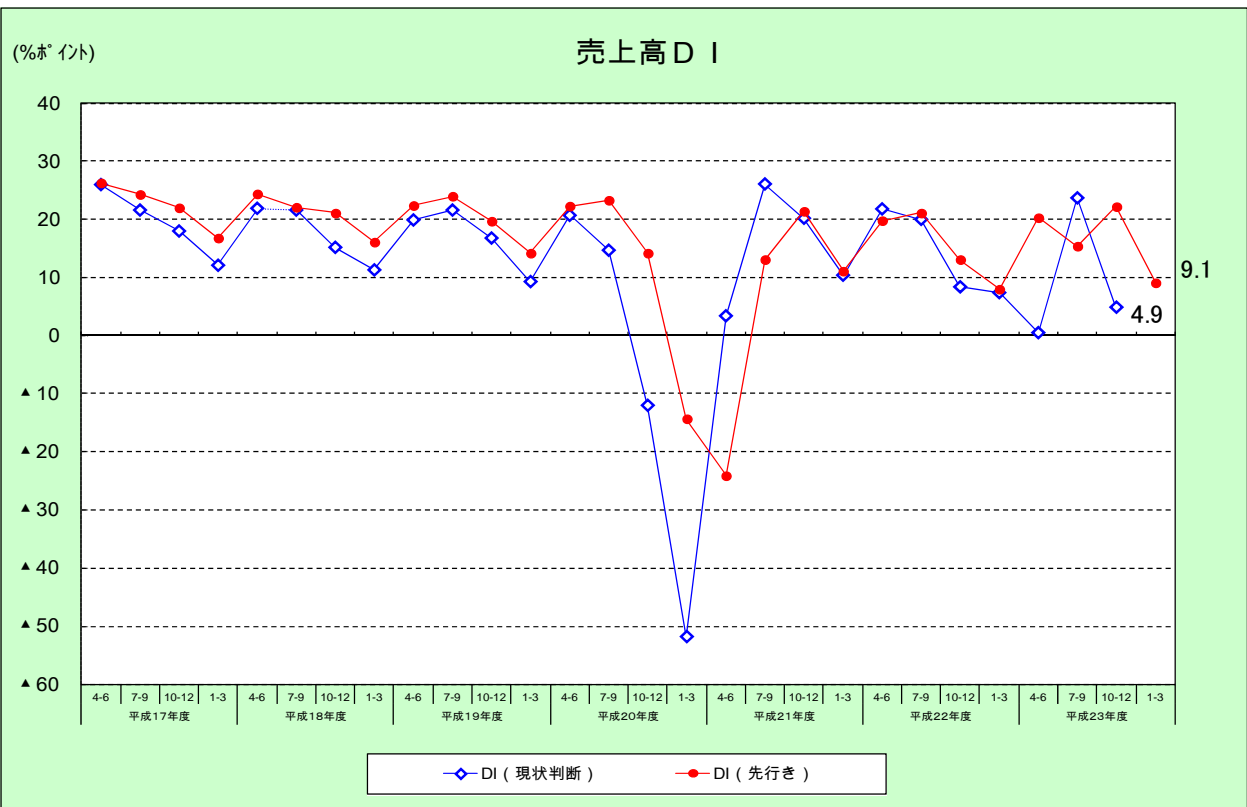
- (1) 売上高 DI は、現状判断及び先行きとも 11 期連続のプラス水準で推移した。現状判断 DI 4.9、先行き DI 9.1 とプラス水準で推移し、前年同期差は、現状判断が 2 期ぶりにマイナス、先行きは 2 期連続のプラスとなった。現状判断及び先行き DI を地域別にみると、各地域でプラス水準となっている。しかし、地域を細分化すると、ASEAN4 では現状判断 DI がマイナス水準となり、洪水被害を受けたタイの現状判断 DI は▲43.7 と大幅なマイナス水準となったが、先行き DI は 3.3 とプラス水準。
- (2) 設備投資額 DI は、現状判断及び先行きとも 10 期連続プラス水準で推移した。現状判断 DI 12.5、先行き DI 6.9 とプラス水準で推移し、前年同期差は、現状判断 DI ▲0.9 ポイント、先行き DI ▲0.2 ポイントとマイナス。すべての地域で、現状判断 DI、先行き DI とともにプラス水準。
- (3) 従業者数 DI は、現状判断及び先行きとも 10 期連続のプラス水準であるが、2 期ぶりに前年同期を下回った。

\* 1「DI」は、調査実施時点を含む四半期（現状判断）及びその翌四半期（先行き）に関し、それぞれ前四半期と比較した見通しについて「増加」と回答した企業の構成比－「減少」と回答した企業の構成比（%）で算出。

「前年同期差」（現状判断及び先行き）は、当期の DI 値－前年同期の DI 値でそれぞれ算出。

本文中、DI 値は数値のみ（例▲5.5）、DI の前年同期差は数値に「ポイント」を付して（例▲5.5 ポイント）記述。

\* 調査対象は、日本企業（金融・保険・不動産を除く全業種で、資本金 1 億円以上、従業者数 50 人以上の日本企業）の直接出資と間接出資を合わせた出資比率が 50%以上、従業者数 50 人以上、製造業、の条件を満たした海外現地法人。



## 1. 実績

### (1) 売上高実績

○売上高実績（平成 23 年 7-9 月期、ドルベース）は、2528 億ドル。前年同期比<sup>(\*)</sup> は 7.8%増と 8 期連続のプラス。主要 4 業種は、はん用等機械が同 18.7%増と 7 期連続のプラス、輸送機械が同 5.4%増と 2 期ぶりにプラス、電気機械が同 5.2%増と 8 期連続のプラス、化学が同 0.1%と微増。北米は同 3.1%増と 2 期ぶりのプラス、アジアは同 7.8%増と 8 期連続、欧州は同 15.0%増と 7 期連続のプラス。

○売上高実績（平成 23 年 7-9 月期、円ベース）は、19.7 兆円。前年同期比は▲2.3%減と 2 期連続のマイナス。

#### ① 北米 <売上高シェア 25.1%>

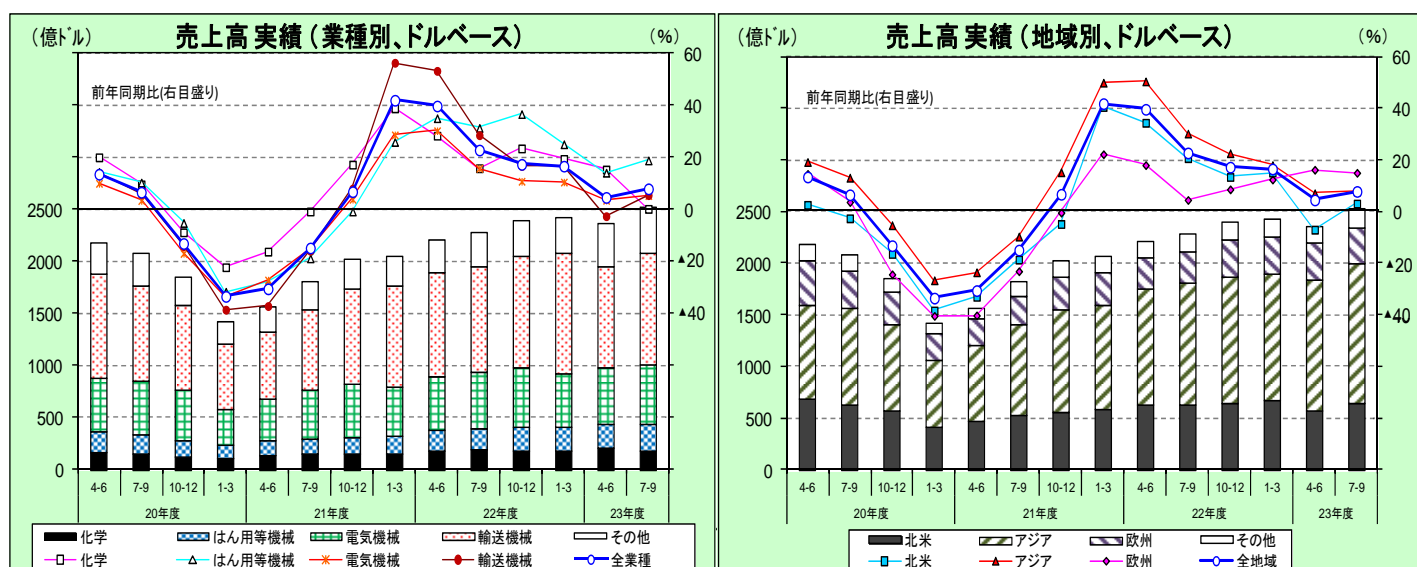
売上高実績（ドルベース）は、636 億ドル。前年同期比は 3.1%増と 2 期ぶりのプラス。主要 4 業種は、輸送機械が同▲4.3%減と 2 期連続のマイナス、はん用等機械が同 20.4%増、化学が同 7.8%増、電気機械が同 5.4%増といずれも 7 期連続のプラス。

#### ② アジア <売上高シェア 53.5%>

売上高実績（ドルベース）は、1352 億ドル。前年同期比は 7.8%増と 8 期連続のプラス。主要 4 業種は、化学が同▲6.5%減と 8 期ぶりのマイナス、はん用等機械が同 18.6%増、電気機械が同 6.4%増、輸送機械が同 5.2%増といずれも 8 期連続のプラス。NIEs3（同 12.7%増）、ASEAN4（同 12.4%増）、中国（同 2.7%増）いずれも 8 期連続のプラス。

#### ③ 欧州 <売上高シェア 14.0%>

売上高実績（ドルベース）は、354 億ドル。前年同期比は 15.0%増と 7 期連続のプラス。主要 4 業種は、電気機械が同▲4.9%減と 6 期ぶりのマイナス、はん用等機械が同 20.5%増、輸送機械が同 24.6%増といずれも 7 期連続のプラス、化学が同 10.4%増と 8 期連続のプラス。



## (2) 設備投資額(有形固定資産(土地を除く)の当期取得額)実績

- 設備投資額実績（平成 23 年 7-9 月期、ドルベース）は、72.2 億ドル。前年同期比は 28.2%増と 6 期連続のプラス。主要 4 業種は、化学が同 41.5%増と 2 期連続のプラスとなったほか、はん用等機械が同 51.4%増、輸送機械が同 40.5%増といずれも 5 期連続のプラス、電気機械が同▲5.9%減と 7 期ぶりのマイナス。地域別にみると、欧州、アジア、北米がプラス。
- 設備投資額実績（平成 23 年 7-9 月期、円ベース）は、5621 億円。前年同期比は 16.2%増と 6 期連続のプラス。

### ① 北米 ＜設備投資額シェア 17.5%＞

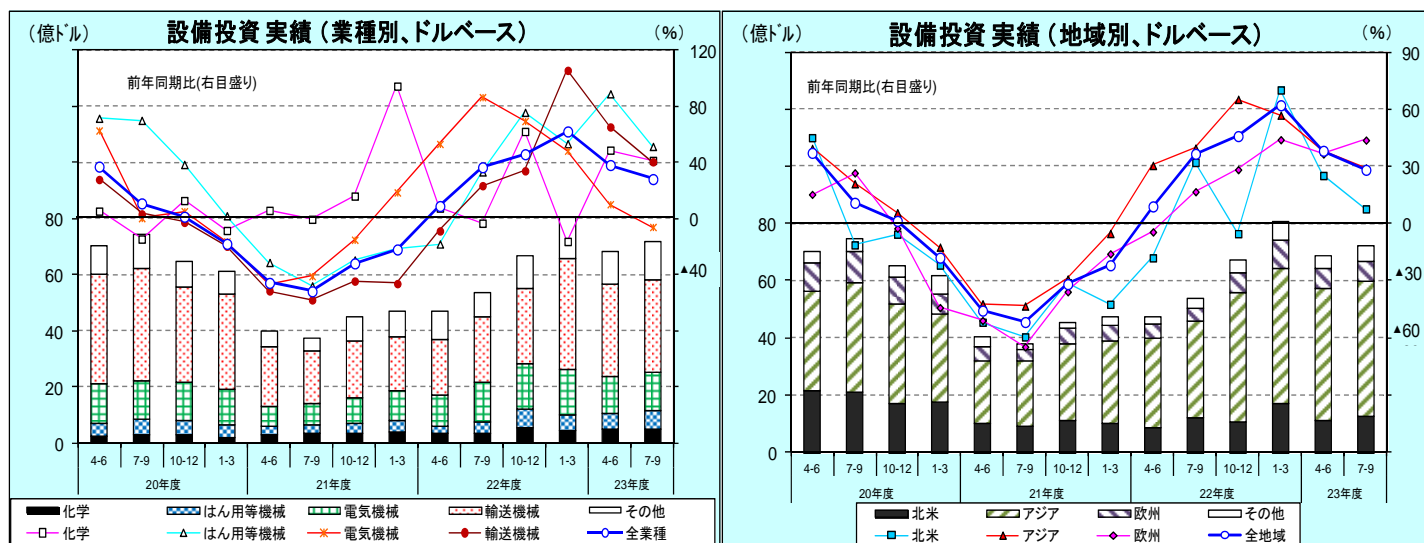
設備投資額実績（ドルベース）は、12.7 億ドル。前年同期比は 7.7%増と 3 期連続のプラス。主要 4 業種は、輸送機械が同▲14.0%減と 2 期連続のマイナス、はん用等機械が同 66.9%増、化学が同 59.0%増といずれも 4 期連続、電気機械が同 45.9%増と 6 期連続のプラス。

### ② アジア ＜設備投資額シェア 65.0%＞

設備投資額実績（ドルベース）は、46.9 億ドル。前年同期比は 29.2%増と 6 期連続のプラス。主要 4 業種は、輸送機械が同 74.3%増と 6 期連続、はん用等機械が同 41.3%増と 5 期連続、化学が同 37.9%増と 2 期連続のプラス、電気機械が同▲6.5%減と 7 期ぶりのマイナス。NIEs3（同 41.2%増）、中国（同 31.9%増）、ASEAN4（同 23.6%増）はプラス。

### ③ 欧州 ＜設備投資額シェア 9.4%＞

設備投資額実績（ドルベース）は、6.8 億ドル。前年同期比は 43.8%増と 5 期連続のプラス。主要 4 業種は、化学が同 36.2%増と 2 期連続のプラス、はん用等機械が同 76.3%増と 2 期連続のプラス、輸送機械が同 72.8%増と 5 期連続のプラス、電気機械は同▲45.7%減と 2 期ぶりのマイナス。



### (3) 従業者数実績

○従業者数実績（平成 23 年 9 月末）は、370.5 万人。前年同期比は 3.0%増と 7 期連続のプラス。  
主要 4 業種は、はん用等機械が同 5.5%増と 8 期連続、輸送機械が同 7.4%増と 7 期連続、化学が同 0.9%増と 11 期連続のプラスとなったが、電気機械は同▲1.4%減と 2 期連続のマイナス。地域別にみると欧州、アジア、北米がプラス。

#### ① 北米 ＜従業者数シェア 11.2%＞

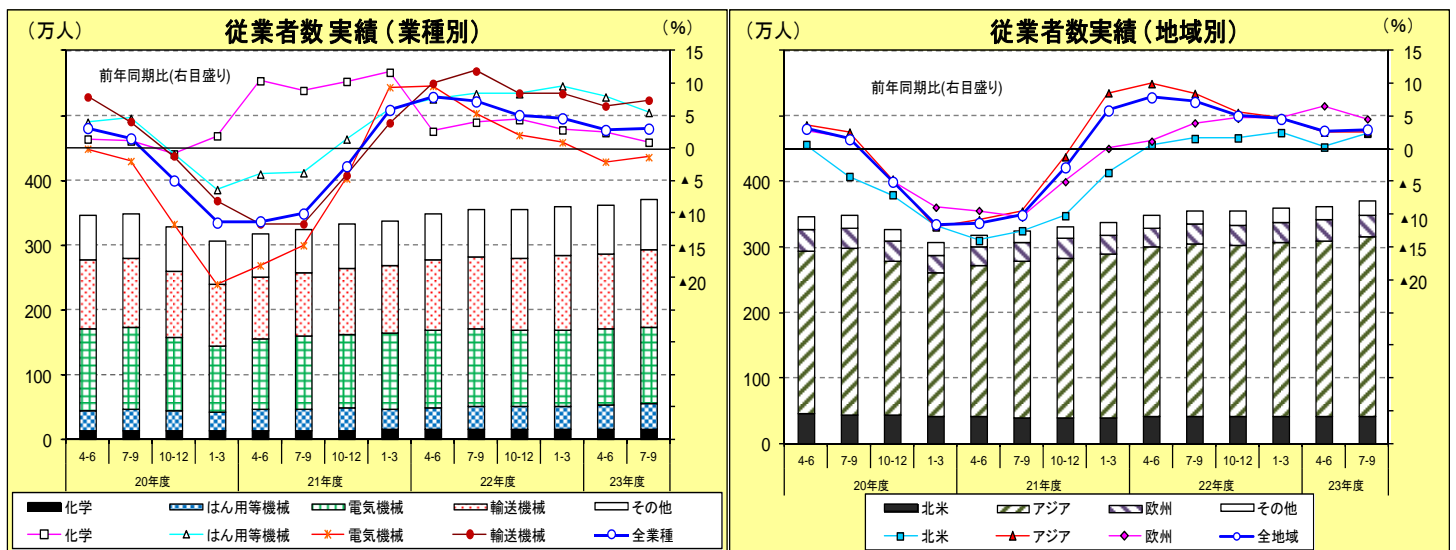
従業者数実績は、41.5 万人。前年同期比は 2.4%増と 6 期連続のプラス。主要 4 業種は、輸送機械が同 2.9%増と 2 期ぶりのプラス、はん用等機械が同 5.8%増と 4 期連続、電気機械が同 0.7%増と 2 期連続のプラス、化学が同 0.2%増と 2 期ぶりのプラス。

#### ② アジア ＜従業者数シェア 74.2%＞

従業者数実績は、274.9 万人。前年同期比は 2.6%増と 7 期連続のプラス。主要 4 業種は、電気機械が同▲1.5%減と 2 期連続のマイナス、はん用等機械が同 5.3%増、輸送機械が同 8.1%増といずれも 8 期連続、化学が同 2.7%増と 11 期連続のプラス。ASEAN4（同 3.6%増）はプラス、中国（同 0.0%）は横ばい、NIEs3（同▲0.9%減）はマイナス。

#### ③ 欧州 ＜従業者数シェア 8.6%＞

従業者数実績は、32.0 万人。前年同期比は 4.6%増と 7 期連続のプラス。主要 4 業種は、電気機械が同▲4.4%減と 5 期ぶりのマイナス、化学が同▲3.4%減と 3 期連続のマイナス、輸送機械が同 7.7%増と 7 期連続のプラス、はん用等機械が同 7.3%増と 5 期連続のプラス。



#### ＜参考＞ 海外経済＞

世界の景気は、ヨーロッパ地域で持ち直しのテンポが緩やかになっていることもあり、全体として回復が弱まっている。先行きについては、弱い回復が続くと見込まれる。ただし、ヨーロッパ地域の一部の国々における財政の先行き不安の高まりが、金融システムに対する懸念につながっていることや金融資本市場に影響を及ぼしていること等により、景気が下振れるリスクがある。アメリカでは、弱い景気回復になっている。先行きについては、弱い景気回復が続くと見込まれる。ただし、失業率の高止まりや住宅価格の下落等により、景気が下振れるリスクがある。また、このところの金融資本市場の動きや財政緊縮の影響に留意する必要がある。アジア地域については、中国では、景気は内需を中心に拡大している。先行きについては、拡大傾向が続くと見込まれる。ただし、不動産価格や物価の動向に加え、このところの金融資本市場の動きや欧米向け輸出の動向に留意する必要がある。インドでは、景気は内需を中心に拡大しているが、拡大テンポがやや緩やかになっている。先行きについては、引き続き内需が堅調に推移するとみられることから、拡大傾向が続くと見込まれる。ただし、物価上昇によるリスクに加え、このところの金融資本市場の動きに留意する必要がある。その他アジア地域では、総じて景気は回復しているが、回復テンポが緩やかになっている。先行きについては、緩やかな回復傾向が続くと見込まれる。ただし、欧米向け輸出の減少や物価上昇により、景気が下振れるリスクがある。また、このところの金融資本市場の動きに加え、タイの洪水の影響に留意する必要がある。ヨーロッパ地域では、景気は持ち直しのテンポが緩やかになっている。ドイツでは、緩やかな回復となっており、一部に弱い動きもみられる。フランス及び英国では、足踏み状態にあるが、一部に弱い動きがみられる。ヨーロッパ地域の先行きについては、極めて緩やかな持ち直しが続くと見込まれる。ただし、一部の国々における財政の先行き不安の高まりが、金融システムに対する懸念につながっていることや金融資本市場に影響を及ぼしていることにより、景気が低迷するリスクがある。また、各国の財政緊縮による影響や、高い失業率が継続すること等に留意する必要がある。

(「月例経済報告」(平成 23 年 11 月)より抜粋)



## 2. 見通し

### (1) 売上高見通し

○現状判断 DI（平成 23 年 10-12 月期）は、4.9 と 11 期連続プラス水準。前年同期差（平成 22 年 10-12 月期の現状判断 DI に比べ）は、▲3.5 ポイントと 2 期ぶりにマイナスに転じた。主要 4 業種<sup>(※1)</sup>は、輸送機械、はん用等機械がプラス水準、電気機械、化学がマイナス水準。前年同期差は輸送機械を除きマイナス。

ASEAN4<sup>(※2)</sup>を除くすべての地域でプラス水準、前年同期差は ASEAN4 がマイナス。

○先行き DI（平成 24 年 1-3 月期）は、9.1 と 11 期連続のプラス水準。前年同期差は、1.1 ポイントと 2 期連続のプラス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準。前年同期差は、輸送機械、化学がプラス、はん用等機械、電気機械がマイナス。

#### ① 北米

現状判断 DI は、12.3 と 2 期連続のプラス水準。前年同期差は、10.8 ポイントのプラス。主要 4 業種は、化学が 4 期ぶりにマイナスに転じたが、他の 3 業種はすべてプラス水準。前年同期差では、輸送機械のみがプラス。

先行き DI は、16.0 と 11 期連続のプラス水準。前年同期差は、7.3 ポイントのプラス。主要 4 業種は、すべてプラス水準。前年同期差は、はん用等機械を除きプラス。

#### ② アジア

現状判断 DI は、1.9 と 11 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲7.9 ポイントのマイナス。主要 4 業種は電気機械を除きプラス水準。ASEAN4（▲19.9）は 2 期ぶりにマイナスに転じたが、中国<sup>(※3)</sup>（12.5）、NIEs3<sup>(※4)</sup>（5.0）はプラス水準で推移。

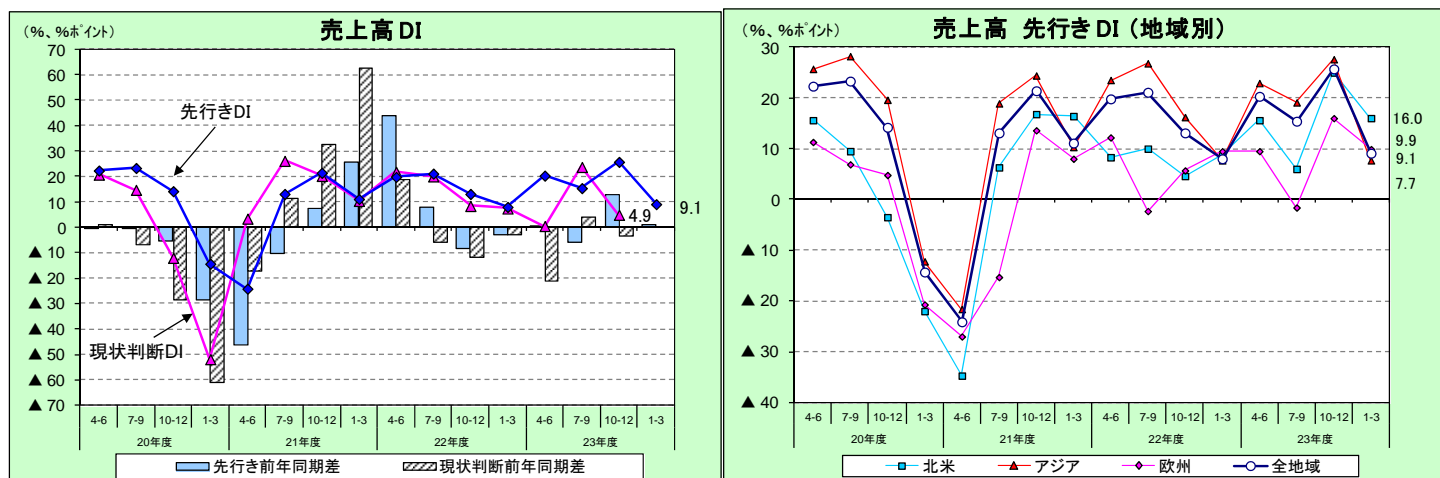
先行き DI は、7.7 と 11 期連続のプラス水準。前年同期差は、0.0 ポイントの横ばい。主要 4 業種は電気機械を除きプラス水準。ASEAN4（6.9）、NIEs3（6.3）、中国（4.9）はプラス水準。

洪水被害を受けたタイの現状判断 DI は▲43.7 と大幅なマイナス水準となったが、先行き判断 DI は 3.3 とプラス水準。

#### ③ 欧州

現状判断 DI は、10.2 と 5 期連続のプラス水準。前年同期差は、1.2 ポイントのプラス。主要 4 業種は、すべてプラス水準。

先行き DI は、9.9 と 2 期連続のプラス水準。前年同期差は、0.4 ポイントのプラス。主要 4 業種は、すべてプラス水準。前年同期差は、化学が 2 期連続のプラスを示したが、電気機械は 2 期連続のマイナス、はん用等機械は 2 期ぶり、輸送機械は 3 期ぶりにマイナスに転じた。



※1 主要4業種：全12業種中、化学、はん用等機械（はん用・生産用・業務用機械）、電気機械、輸送機械の4業種

※2～※4 ASEAN4: インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア NIEs3: シンガポール、大韓民国、台湾 中国: 香港含む

<参考>DIの詳細は、報告書「海外現地法人の動向」P. 4～P. 15、「統計表」P. 21～P. 41 をご覧ください。

## (2) 設備投資額(有形固定資産(土地を除く)の当期取得額)見通し

- 現状判断 DI は、12.5 と 10 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲0.9 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、プラス水準で推移、前年同期差は輸送機械を除きプラス。すべての地域でプラス水準。
- 先行き DI は、6.9 と 10 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲0.2 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準となり、前年同期差は電気機械と化学でマイナス。すべての地域がプラス水準で推移。

### ① 北米

現状判断 DI は、10.8 と 10 期連続のプラス水準。前年同期差は、0.3 ポイントと 2 期連続のプラス。主要 4 業種は、すべてプラス水準で推移。

先行き DI は、7.7 と 8 期連続のプラス水準。前年同期差は、0.7 ポイントのプラス。主要 4 業種は、すべてプラス水準となり、前年同期差は、化学、輸送機械でプラス、それを除く業種はマイナス。

### ② アジア

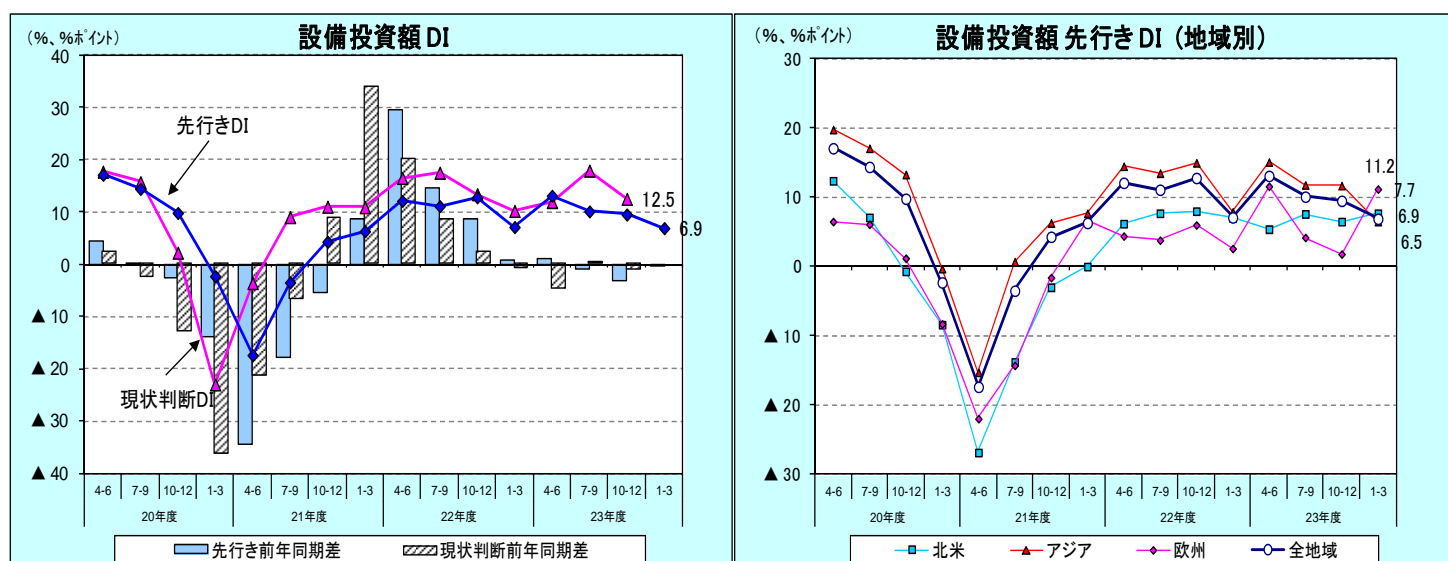
現状判断 DI は、13.3 と 10 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲1.0 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、すべてプラス水準で推移。中国 (16.5)、NIEs3 (14.8)、ASEAN4 (8.0) はプラス水準。

先行き DI は、6.5 と 11 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲1.4 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準となり、前年同期差は、電気機械、化学でマイナス。ASEAN4 (7.1)、中国 (6.0)、NIEs3 (1.6) はプラス水準。

### ③ 欧州

現状判断 DI は、7.8 と 10 期連続のプラス。前年同期差は、▲2.4 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準。

先行き DI は、11.2 と 9 期連続のプラス水準。前年同期差は、8.6 ポイントのプラス。主要 4 業種は、すべてプラス水準となり、前年同期差もすべてプラス。



### (3) 従業者数見通し

- 現状判断 DI は、7.2 と 10 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲2.4 ポイントと 2 期ぶりにマイナス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準となり、前年同期差は電気機械が 5 期連続でマイナス、はん用等機械が 9 期ぶりのマイナスとなっているが、化学が 2 期ぶりにプラス、輸送機械が 2 期連続のプラスとなった。すべての地域でプラス水準。
- 先行き DI は、6.3 と 10 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲0.1 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準となり、前年同期差は電気機械のみがマイナス。すべての地域でプラス水準。

#### ① 北米

現状判断 DI は、11.6 と 8 期連続のプラス水準。前年同期差は、7.5 ポイントのプラス。主要 4 業種は、すべてプラス水準。

先行き DI は、6.8 と 6 期連続のプラス水準。前年同期差は、5.3 ポイントのプラス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準となり、前年同期差は電気機械を除きプラス。

#### ② アジア

現状判断 DI は、6.8 と 10 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲5.9 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準。中国 (8.6)、NIEs3 (5.8)、ASEAN4 (2.4) はプラス水準。

先行き DI は、6.9 と 10 期連続のプラス水準。前年同期差は、▲2.1 ポイントのマイナス。主要 4 業種は、電気機械を除きプラス水準となり、前年同期差は、輸送機械を除きマイナス。中国 (7.4)、ASEAN4 (6.5)、NIEs3 (1.3) はプラス水準。

#### ③ 欧州

現状判断 DI は、3.8 と 5 期連続のプラス水準。前年同期差は、3.1 ポイントのプラス。主要 4 業種は、すべてでプラス水準。

先行き DI は、2.8 と 4 期連続のプラス水準。前年同期差は、5.8 ポイントのプラス。主要 4 業種は、電気機械、輸送機械が横ばい、はん用等機械、化学がプラス水準となり、前年同期差はすべてプラス。

